

令和3年度外国籍市民インタビュー調査について（案）

□調査のねらい

地域の国際化を背景に国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化・習慣の違いを認め合い対等な関係を築き、地域社会の構成員としてともに暮らしていく「多文化共生社会」の実現が求められている。

また、2020年から新型コロナウイルス感染症は世界的な感染爆発（パンデミック）を引き起こし、日本国内ではワクチン接種が開始されているが未だ収束が見えない状況となっている。コロナ禍は市民の暮らし（生活・仕事・生き方）に甚大な影響があったことに加え、外国籍市民についても、同等以上の影響があったと推測される。

米原市では外国籍市民が直面する問題や生活実態、行政へのニーズ等を把握することにより、効果的な人権施策の推進を図ることから、必要な基礎資料の収集と分析を行う。

□調査の対象

米原市に外国人登録をしている外国籍市民を抽出し、事前に調査協力について同意を得た世帯を本調査の対象とする。米原市の外国人登録者の国籍別内訳は次のとおり。

【令和3年5月末現在】

国籍	人数（割合）	世帯数(内混合世帯)
ベトナム	165(28.8%)	163(3)
中国	159(27.7%)	149(19)
ブラジル	144(25.1%)	67(3)
韓国	33(5.8%)	30(16)
フィリピン	18(3.1%)	17(15)
その他(15人以下) インドネシア 10、米国 6、ペルー5、台湾4、オーストラリア3、ボリビア3、朝鮮3、ニュージーランド3、トルコ3、カンボジア2、スリランカ2、モンゴル2、カナダ1、フランス1、マレーシア1、ネパール1、シリア1、タイ1、英国1、経過在住1	54(9.4%)	48(14)
合計	573	474(73)

割合＝国籍別人数÷合計(573人)【小数第2位を四捨五入】

□調査人数について

- ・今回の調査は30人に対して行うものとする。(外国籍市民の約5%程度)

- ・人数の割合を加味して設定する。
ベトナム…9人程度 中国…8人程度 ブラジル…8人程度
韓国…2人程度 フィリピン…1人程度 その他…3人程度
- ・調査を行う人数については、協力状況によって多少増減する。

□対象者の抽出方法について

対象者の抽出方法は以下の方法を想定している。

- ①市民保険課（外国人登録の担当課）に申請して、住民リストの提供を受ける。
- ②協力いただける対象者の紹介を受ける。
（紹介依頼者：市民保険課、多文化共生協会、企業・営業所、市職員）
- ③依頼文を郵送して、同意書を返送いただく。

□スケジュール

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の実施内容の検討 <u>（審議会）</u> ・聞き取り項目の検討 <u>（審議会）</u> ・6月末時点の国籍別対象者リストを入手
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者の紹介を受ける。 ・候補者あての依頼文と同意書を送付し、本人の意思確認を行う。 ・外国人労働者を雇用している企業・営業所を把握、協力依頼を行う。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー調査の進捗経過報告 <u>（審議会）</u>
9月～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍市民インタビュー調査実施 ・必要に応じて、追加の聴き取りを行う。
11月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果分析・報告書作成
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・調査報告 <u>（審議会）</u>

□ 調査の実施

- ・調査は音声によるインタビュー形式で実施する。
- ・音声は録音を行い、後日報告書作成時に活用する。（報告書作成後は消去する。）
- ・必要に応じて、協力者に事前に聴き取りを行う項目を示しておく。

□ 情報の取扱い

調査に伴う個人情報および音声情報等は、米原市個人情報保護条例を遵守し、個人の権利および利益を侵害することのないよう、適正な取得、保管、および管理をする。

□ その他

このインタビュー調査については、外国語のスキルや今日までの経緯から米原市多文化共生協会に調査の委託を行っている。個人情報の扱いや企業・個人への依頼事項などもあるため、米原市と密接な連絡をとり、双方の協力体制のもと業務を遂行する。